

ポラリス

札幌社会保険総合病院 院外広報誌

第4号

2007年4月



- 新年度を迎えて
新入職員に期待すること
- 市民公開フォーラムを終えて
- こんにちは、医療連携室です No. 1
- 第7回 調理技術勉強会開催
- 医療の現場から①②③

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国の中心で悠久に燦然と輝き続けたいという願いが込められているのです。題字は秦院長の直筆です。



URL <http://www.zensharen.or.jp/sapb>

新年度
を迎えて

新入職員に期待すること

副院長 松岡伸一



平成19年度を迎えるにあたり、一言ご挨拶させていただきます。

最近、いわゆる医局制度の弱体化により、地域での医師が不足し、地域医療が危機的な状態にあります。また、勤務医の過酷な労働や待遇面での問題などにより、働き盛りの勤務医の開業に向けた動きが全国的に見られています。さらに、平成18年度の診療報酬の引き下げにより、病院経営への影響が少なからず出ているのが現実です。

当院においても、診療報酬改定と昨年5月の電子カルテ導入による混乱が重複した結果、今までに経験したことのないほどの大きな収支の悪化が見られました。しかし、10月には、道央圏では初の地域医療支援病院の承認を得ることができ、本年1月の開院60周年記念、医療連携室開設10周年記念を兼ねた、名称承認記念の市民公開フォーラムも盛会に終わり、地域との連携が深まりつつあると考えています。

さて、本年度の病院運営推進のテーマは「信頼と連携」です。信頼、連携ともに、単に医療従事者と患者さんやその家族の間だけのものではなく、同じ職種や他の職種の職員の間や、さらには病院に関係する地域の先生たちやその他の多くの職種の方々の間など、非常に範囲が広いものだと思います。

しかし、それを築き上げることが、真の意味での地域医療支援病院の使命ではないかと考えています。当院単独で完結するのではなく、地域医療全体の流れの中で、当院の役割を考え、職員ひとりひとりがそれを果たすための「信頼と連携」を築いていけるよう、努力、工夫をしていきたいと考えます。

しかし、もっとも大事なことは、現場で、目の前にいる患者さんに対して、最善を尽くすことと考えています。ちいさなひとつひとつの積み重ねの結果として、地域医療に貢献できるよう、職員一同努力していきたいと思っておりますので、どうか本年度も当院をよろしく願います。

『市民公開フォーラムを終えて』

庶務課 課長補佐 吉川 晶代

平成19年1月27日（土）、開院60周年・医療連携室10周年・地域医療支援病院名称承認の3つの記念行事として、14時からサンピアザ劇場で市民公開フォーラムが開かれました。テーマもずばり『いま地域を考える』です。美しいコーラスと素晴らしい講演で、予定時間を大幅に過ぎる盛況振りでした。

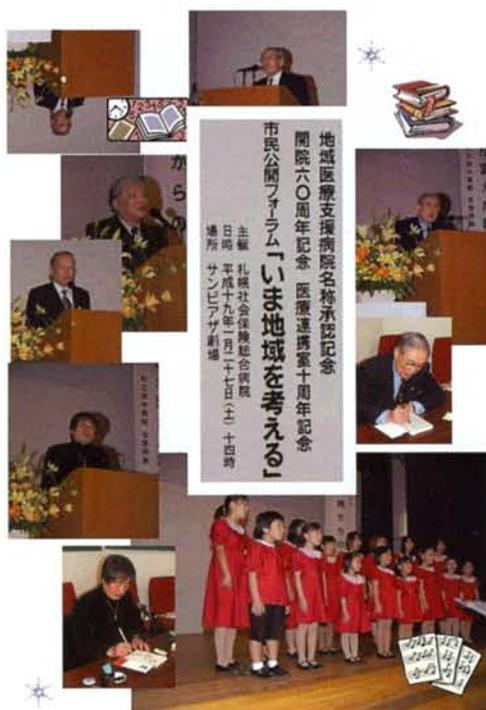
でも開催までは、当日一般のお客様がどれくらい来ていただけるか、会場の音響や設備は大丈夫か、本の販売とサイン会など、心配することはたくさんありました。

しかし、大幅の予想を覆し(?)大勢のお客様にきていただき、そのせいで会場の気温も急上昇、途中で会場内の温度を下げていただいたほどでした。(素晴らしい!!)

当日の受付もひどい混乱はなく、本の売れ行きは上々で完売も出たほどです。心配していたサイン会は、講演終了後に多少の混雑はありましたが、先生のお話に感動して本を買い、サインをもらったお客様は、皆満足そうにお帰りになっていました。

今回の市民公開フォーラムは、院外に会場を借りることから始まり、いろんなことが手探り状態で準備も大変でしたが、山下次長の下、各部署の実行委員に当たった職員がそれぞれの役割を頑張って実行してくれたことにより、大きな失敗もなく開催にこぎつけました。また、開催までに患者様などに説明し、進めてくれた職員の皆様の協力が、多くの来場者につながったと思います。

このたびの市民公開フォーラムは、内容も良かったと思いますが、職員が協力して大きなことを成し遂げたということが、何より素晴らしいことだったのではないかと思います。



第7回
市民公開フォーラム
「いま地域を考える」

平成19年1月27日

地域医療支援病院名称承認記念
開院 60周年記念
医療連携室 10周年記念

市民公開フォーラム 「いま地域を考える」

日時：平成19年1月27日（土）

午後2時から

場所：サンピアザ劇場

(札幌市厚別区厚別中央2条5丁目)

札幌社会保険総合病院

こんにちは、医療連携室です No. 1

平成8年5月に開設いたしました「医療連携室」がおかげさまで10周年を迎え、経過を綴った記念誌「医療連携室10年の歩み」（写真1）を医療機関様にお届けすることが出来ました。これからも地域の医療機関様や患者様にとって、より身近な存在でありたいという願いから「医療連携室」のページをスタートさせていただきます。ご利用状況や院内行事などのお知らせを掲載する予定ですが、第1回目となります今回は当室の紹介をさせていただきます。

「医療連携室」は、正面玄関を入りエントランスホール左手にあります。オープンカウンターということもあり、多くの方々が問い合わせや相談にいらっしゃいます。「当院の看板娘であれ」という院長の言葉を胸に、社会福祉士3名と、事務職員の計4名のスタッフで対応しております。

受診・検査の予約についてですが、依頼医療機関様より診療情報提供書を兼ねた受診・検査予約票がFAXで送付されますと、ネットワークシステムのパソコンから吹き抜けの2階まで聞こえる「ピンポン」というお知らせ音が響き渡ります。FAXを受け取ってから予約票の送付まで、原則15分以内をお約束しておりますので、時間と戦いながら院内の関係部署と来院日時を決定し、予約票を依頼医療機関様へFAX送信しております。

予約日には、患者様が予約票と診療情報提供書を持参し来院いたしますが、初めて当院に来院する方、戸惑いや病気への不安を感じている方も多いため、不安を少しでも解消していただけるよう、笑顔であたたかい対応を心掛けております。また、受診・検査終了後は、結果を速やかに通知出来るよう院内各部署と調整しております。

下記の図1、2で平成19年2月現在の診療科別利用状況と地域別医療機関利用状況を報告させていただきます。診療科によっては予約が込み合う場合もございますが、ご希望の日時などご要望がございましたら、ご連絡頂ければと思います。

今後とも、地域の医療機関の皆様とともにより良い医療連携を目指していきたくと考えております。新年度も何卒よろしくお願いたします。

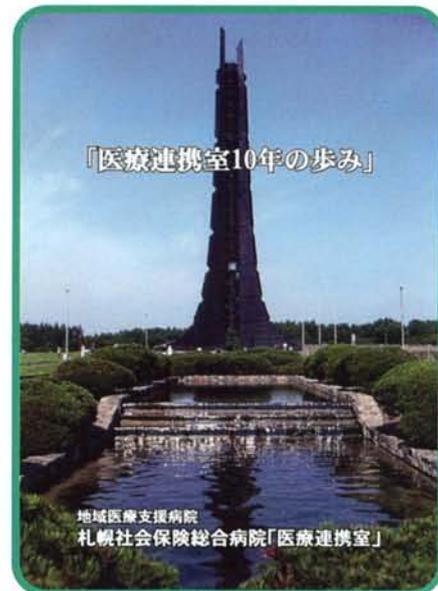
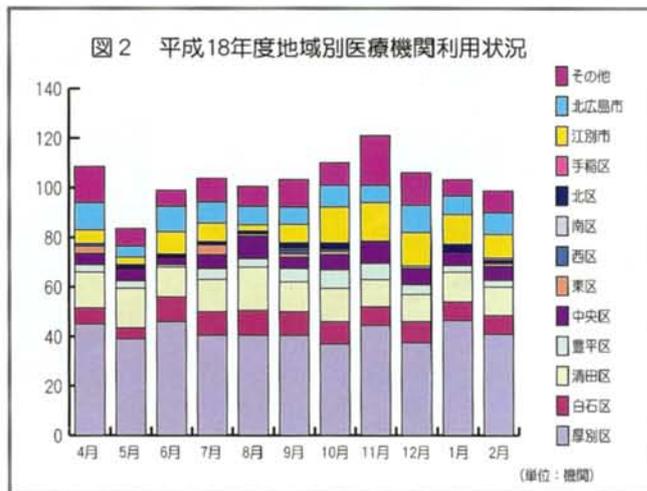
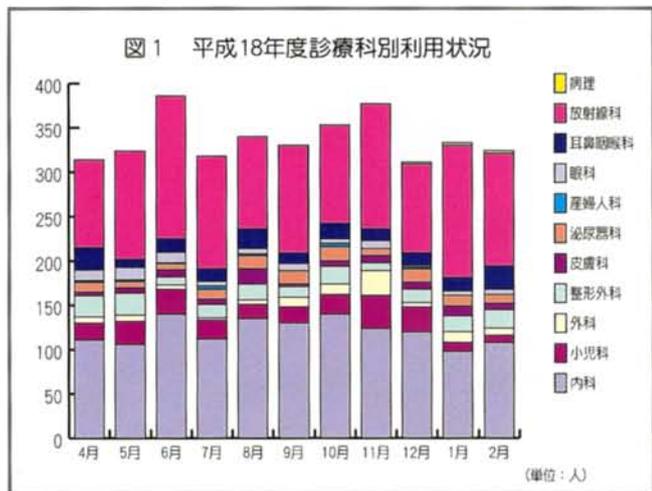


写真1 記念誌表紙



「医療連携室」のスタッフ一同です



第7回 調理技術勉強会開催

栄養部 調理師 高橋 晃 司

平成19年2月6日当院「はまなす」において開催されました。今回のテーマは「春」で、食種はエネルギー・タンパク質コントロール食で、エネルギー 650～700kcal・タンパク質23～25g・塩分2.5g・材料費400円以内とし、主食を含めた行事食としての献立でした。

調理師と栄養士がペアを組み、日頃の調理技術を6組が腕を競い合いました。この会も7回目（年2会開催）を数え、毎回好評であり、19時45分からという遅い時間にもかかわらず大勢の職員が参加してくださり、各調理師自慢の料理を試食批評してくださいました。

「春」というテーマであったため、菜の花を使った料理が多く、6組中4組が取り入れていました。また、主食は白飯はなく、ちらしずしや炊き込みご飯など色鮮やかなものが多く、5名の審査員が見た目・味・色

彩盛り付け・病院食としての適応性を試食しながら、真剣に審査していただきました。タンパク質や塩分など

★ 優秀賞は高橋調理師の手に！ ★



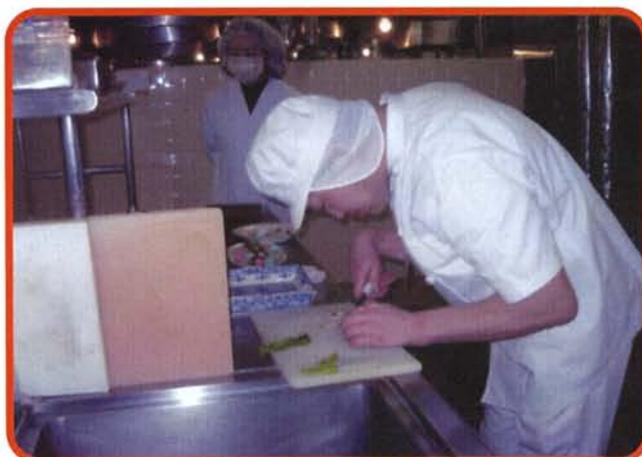
の制限がある中で、味付けをダシ・甘味・酸味などで補い工夫のあとが随所に見られており、審査員からも「おいしい」「きれいだ」「安い」などしきりと感心する声が聞かれました。

今回、最優秀賞に輝いたのは、私高橋晃司調理師と佐藤美保栄養士ペアの「ひなちらし弁当」で、ちらしずし・菜の花とかまぼこを使ったお日様・ヨーグルト味のサラダが選ばれました。点数も各組接近しており甲乙つけがたい出来栄であり、調理師・栄養士の意気込みが伝わったのだと思います。この献立は、3月3日のひなまつりの病院食として患者さまに提供されました。患者さまの喜ばれる顔が励みです。

★ 準優秀賞 木下・金住組 ★



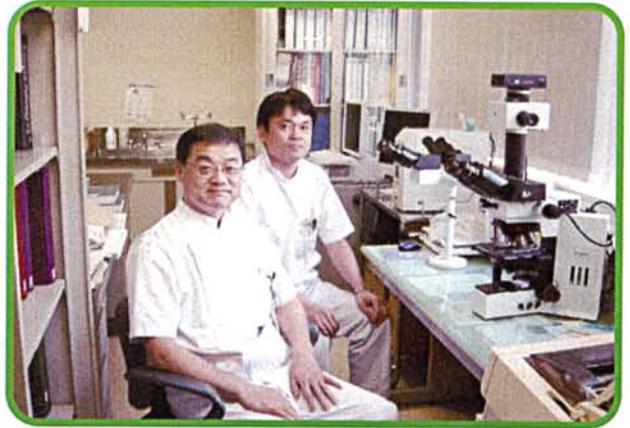
真剣に審査中……



高橋調理師

病理医のお仕事

病理部長 高橋 秀史



病理医の日常業務ですが、一般の人には「病理組織診断」と「細胞診」の意味と違いはほとんど理解されていません。ある病理医が新聞記事のデータベースで調べたところ、やはりほとんどの記事で病理組織診断と細胞診は混同あるいは不適切に表現されていました。

「肺がんが疑われる患者3人の細胞検査の際に検体を取り違い…」(細胞診という言葉でない)、「手術し、切除部位の細胞を調べたところ、がんではないことが分かり…」(文章は明らかに病理診断だが、細胞を調べたと)、「甲状腺細胞を取り出す検査を受けた…」(甲状腺細胞を取り出す検査?細胞診と思うが手術材料の可能性も)てな具合です。医学部の学生実習でも聞くと明確に答えられない学生が結構多いです。この際、はっきりしておきましょう。病理診断は生検や手術材料から標本を作るわけですから、患者にとっては痛みや危険を伴う検査ですが、癌かどうかの最終診断となります。細胞診は、尿や喀痰など出来るだけ痛みと危険を少なくして得られた検体をそのまま標本にして検査します。細胞診のみで最終診断とはならず、画像診断との総合判断が求められます。侵襲性、標本作製法、診断精度、ついでに保険点数も違います。新聞記事の多くは「検体取り違い」事件です。記事の間違えを笑っていて、自分が記事にならないように気を付けています。

RSウイルス感染症とは

小児科部長 宇加江 進



RSウイルス (respiratory syncytial virus) は乳幼児の冬期の呼吸器感染症の主要なウイルスである。冬期間に最も多く流行し接触感染及び飛沫感染する。乳幼児期の2、3歳までに初感染し、その後再感染を繰り返すのだが、初感染が最重症である。感染後4～6日くらい潜伏した後で上気道炎となり、経気管的にもしくは血行性に下気道にいたる。

臨床症状は上気道炎のみで終わることもあるが、乳幼児では下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)をきたし、入院を要することも多い。発熱は伴う場合と伴わない場合とがあるが、重症度は呼吸状態で決まり、無呼吸、喘鳴、咳嗽などである。細菌の2次感染により肺炎、中耳炎をおこすことも比較的多くみられる。先天性心疾患を合併する場合、重症化して時に致死的となる。当科でも平成12年に心室中隔欠損症を伴い、呼吸器管理を行なうも救命できなかった症例を経験している。

以前はウイルス分離など一般病院では確定診断が難しくインフルエンザ同様に臨床診断で決めていたが、現在は鼻汁による抗原迅速診断キットを用いベッドサイドで診断可能である。インフルエンザと違い現在のところワクチンも治療薬も無いが、抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体製剤が実用化されハイリスクの児(低出生体重児、先天性心疾患児)に対し流行期に月1回の予防投与が行なわれている。

昨年秋からの流行期にはRSウイルス感染症の入院患者が例年以上に多く、2月のケーススタディカンファレンスに箭原医師が発表した。



- あなたは3か月前とは違う人間になっている? -

内科・リウマチ科 大西 勝 憲

今回は血液細胞に関するちょっと気になるお話をしたいと思います。

皆さんは「3か月前の自分の血液細胞と今のそれとは同じものである」と考えているのではないのでしょうか。「血液型が一生変わらないのであるから、私達の体が存在している限り、血液細胞も同じ細胞のまま生き続ける筈」と考えるのはなかば当然かもしれません。確かに一部の細胞、たとえば脳細胞は生まれたときからずっと長い間生き続けるといわれております。しかし血液細胞に関してはけっしてそうではないのです。

血液細胞の中で一番数の多い赤血球についてまずお話ししたいと思います。ところで私達の体には一体いくらの数の赤血球があるのでしょうか。健康なかたの場合、針先大の広さに5,000,000(500万)個の赤血球がひしめきあっております。そこで体全体のおおよその赤血球の数を計算してみますと、39兆個というとてつもない数が存在していることとなります。

一方、この39兆個もの赤血球は約3か月(90日)という短い寿命でその一生を終えてしまいます。つまり、赤血球という立場からみると、今のあなたは3か月前のあなたとはまったく違う人間になっていることとなります。

次に体内の39兆個の赤血球をその寿命90日で割ってみますと、1日あたり4,330億個の赤血球が死んでいき、1秒間では500万個、実に札幌市の人口の約3倍の数の赤血球が毎秒死んでいくこととなります。しかしご安心ください。寿命で死んだ赤血球は、体内にある再処理工場に即座に運ばれ、若い赤血球として同じ数だけ再生産されているからです。

このため私達は健康で普通に生活しているかぎり、けっして貧血になることはありません。同様に白血球の寿命は4-5日であるため、1秒間に127万個、血小板の寿命は4-7日であるため、1秒当たり320万個という膨大な数の細胞が死んで常には生まれ変わっていることとなります。

赤血球、白血球、血小板の3者を足し算すると毎秒東京都の人口に相当する血液細胞が生まれては、死んでいることとなります。言い換えると起きているときにも、寝ているときにも、体内では常時生と死がダイナミックに進行することにより、私達の体が毎日何事もなかったように維持されていることとなります。このように考えると親からもらった体を一生大切にしていかなければ罰があたるような気がしてなりません。

編 集 後 記

今年は暖冬で、過ごしやすい日が多くあっという間に春の声が聞こえてきますね。

スキー・ボードなどのアウトドア派にとっては、ちょっと物足りないシーズンだったかもしれませんね。インフルエンザ・ノロウイルスなど大流行はしていませんが、まだまだ油断はできません。皆様、うがい・手洗い・バランスの良い食事を日頃から習慣として心がけ、健康的な毎日をお過ごしください。

当院も開院してから60年となり、今後も皆様に愛される病院めざしてがんばっていきたいと思います。

(紺野記)

札幌社会保険総合病院『診療受付一覧表』

診療受付時間
(午前8時～11時、午後1時～3時)

平成19年4月1日現在

内科(445・459・470) 予約受付 14:00～17:00

	午前		午後	
	糖尿病	腎臓病	糖尿病	腎臓病
月	増田	工藤	午後診療無	
火	田島	診療無	午後診療無	
水	田島	角田	午後診療無	
木	増田	診療無	田島	診療無
金	増田	安田(卓)	午後診療無	

呼吸器科(445・459・470) 予約受付 14:00～17:00

	午前		午後	
	月	高岡	午後診療無	
火	土肥	土肥		
水	土肥	午後診療無		
木	高岡	高岡		
金	土肥	午後診療無		

消化器科(445・459・470) 予約受付 14:00～17:00

	午前		午後	
	月	高木	小野	
火	横山	午後診療無		
水	小野	午後診療無		
木	高木	午後診療無		
金	横山	関谷	午後診療無	

循環器科(445・459・470) 予約受付 14:00～17:00

	午前		午後	
	月	笹尾	午後診療無	
火	高木(寛)	堀田		
水	午前診療無	内藤/高木(寛)		
木	笹尾	午後診療無		
金	笹尾/ベースメーカー外来	堀田		

リウマチ科(445・459・470) 予約受付 14:00～17:00

	午前		午後	
	月	午前診療無	古崎	
火	午前診療無	大西		
水	大西	午後診療無		
木	午前診療無	大西		
金	午前診療無	古崎		

総合診療科(467) 予約受付 14:00～17:00

	午前		午後	
	月	高木(寛)	土肥/田島	
火	高岡	安田/角田		
水	増田	高木		
木	堀田/内藤	横山		
金	大西	内藤/田島		

小児科(474)

	午前		午後		
	月	宇加江	(柳内)	伊藤	
火	日下	(伊藤)	乳児検診13:00予約/予防接種14:00		
水	伊藤	(柳内)	宇加江		
木	柳内	(伊藤)	日下		
金	宇加江	(柳内)	柳内		
火曜	(13:00～14:00)予約		乳児検診		
火曜	(13:00～15:00)		三種混合・麻疹・おたふく 水痘・風疹・二種ワクチン		
火曜	午後(予約)月1回(第2週)		心臓外来		
木曜	午前(予約)月2回(第1.3週)		精神衛生相談		
金曜	午後(予約)神経外来		伊藤		

夜間科長	8989	三城美装	8947
日直看護師	8933	看護師当直	8011
事務当直	8012		

外科(381) 予約受付 14:00～17:00

	午前		午後	
	月	秦		佐藤
火	秦		交代制	
水	松岡	松岡/中木村		
木	中川		中川	
金	許		許	

整形外科(431) 予約受付 14:00～17:00

	午前			午後	
	新患	再来(予約)	再来(予約)	新患	再来
月	黒部/寺島	永井	佃	永井	
火	永井/佃	黒部	寺島	佃	
水	永井	佃			
木	黒部	永井			
金	寺島	黒部	寺島		

※月曜日診療受付14:30まで。

皮膚科(378) 予約受付 14:00～17:00

	午前		午後	
	月	松村	笠井	松村
火	松村	笠井	松村	
水	松村	笠井	笠井	
木	松村	笠井	(手術)	
金	松村	笠井	笠井	

泌尿器科(386) 予約受付 14:00～17:00

	午前		午後	
	月	三橋	三橋	
火	三橋	(手術)		
水	三橋	三橋		
木	三橋	(手術)		
金	三橋	三橋		

産婦人科(389) ※(水) 14:00～15:00受付

	午前		午後	
	婦人科	婦人科	婦人科	婦人科
月	佐藤		佐藤	
火	佐藤	山本	佐藤	山本
水	佐藤	佐藤		
木	佐藤	(手術)		
金	佐藤	山本	佐藤	山本

眼科(372) 予約受付 14:00～17:00

	午前		午後	
	月	小原	安藤	小原(予約)
火	小原	安藤	小原(予約)	安藤(予約)
水	小原	安藤	(手術)	
木	小原	安藤	小原(予約)	安藤(予約)
金	小原	安藤	(手術)	

耳鼻咽喉科(384) 予約受付 14:00～17:00

	午前		午後	
	月	交代制	手術	(手術)
火	(手術)		(手術)	
水	栗原	川原	栗原	川原
木	栗原	川原	栗原	川原
金	栗原	川原	予約検査	

放射線科(381)

	午前		午後	
	月	吉川		吉川
火	吉川		吉川	
水	吉川		(検査)	
木	吉川		吉川	
金	吉川		(検査)	

発行責任者：秦 温信

発行：〒004-8618 札幌市厚別区厚別中央2条6丁目2番1号 札幌社会保険総合病院